

メキシコ系ゲストワーカーと アメリカ合衆国

アメリカ大統領選で避けては通れないメキシコとの二国間の関係。時事的な問題を手掛かりにして、歴史的にアメリカとメキシコの二国間の関係を考えてみましょう。



画像出典 The Portal to Texas History

https://texashistory.unt.edu/ark:/67531/metaph23076/m1/1/med_res/



画像出典 The Oregon Historical Society

<https://oregonhistoryproject.org/articles/historical-records/mexican-laborers-weed-sugar-beet-field/#.Wlmpm1OLTcs>

予約不要

担当：文学研究科 M2松本智憲

時間：2017年1月6日（金）12:20-12:50

場所：総合図書館B棟2Fラーニング・commons

広くアメリカの時事問題や移民問題に興味があれば、覗いてみて下さい！

外国人労働者(ゲスト・ワーカー)

- ゲスト・ワーカー(Guest Worker)「外国人労働者」

短期就労ビザによって、一定期間のみ国内で居住・就労が認められる短期労働者。

概して不熟練労働などの低賃金労働に従事する。

- アメリカに渡るメキシコ系ゲストワーカー「ブラセロ(bracero)」

第二次世界大戦期間中のアメリカの労働力不足を補うため、合法的にアメリカで出稼ぎをするメキシコ系短期労働者。「ブラセロ(bracero)」はスペイン語の「腕(brazo)」に由来する単語で、「働き手」、「労働者」という原意から転じて、アメリカに出稼ぎに向かうメキシコ人を指す一般的呼称として使用される(戸田山:2016)。

一般的な移民とは異なり、法的な保障をされたうえでアメリカに入国する。

アメリカ史の中でのメキシコ系移民の研究

☆台頭するヒスパニック・ラティーノ集団への関心

→2000年センサスでアフリカ系アメリカ人を抜いてアメリカ最大のマイノリティ集団へ
=近年のアメリカ史研究の中でも急速に研究蓄積が増えてきた分野

☆アメリカ現代史の中の「メキシコ系移民」を巡る重要論点

☞大統領選挙で必ず出てくる「メキシコ国境問題」

=多くの研究が、非「合法」移民問題や、移民労働者等を扱う

(例) 国境警備兵、移民法、労働力の移入等

関連授業

文学部の例

- アメリカ史関連の講義(2016年開講時)
西洋史学講義「1970年代—アメリカと世界」
- 人の移動に関連する講義(2016年開講時)
文化交流史講義「越境する人びと／交錯する文化」

今日の講習会の目標

☆アメリカ現代政治の中のメキシコ系移民を巡るキーワード

「不法滞在の移民(undocumented immigrants/illegal alien)」、「強制送還(deportation)」

etc.)....

☞ メキシコ系移民と非合法性が暗示される。

☆アメリカのメキシコ系移民に対して、非合法性が暗示されるのはなぜ？

①1965年移民法の制定 ②アメリカとメキシコ間でのブラセロ・プログラムの1964年の失効

→今日は、②のブラセロ・プログラムを中心に進める。

ブラセロ・プログラムの成立

- ブラセロ・プログラム(Bracer Program)

1942~1964年まで、アメリカ合衆国とメキシコの間で締結

☞ 第二次世界大戦中のアメリカ国内の労働力不足への戦時協力として、メキシコ系労働者をアメリカ国内で、季節労働者として従事させる。

総計で約500万人のメキシコ系季節労働者(bracero)が主にアメリカの農産業に従事

画像出典

: https://en.wikipedia.org/wiki/Bracero_program#/media/File:MexicaliBraceros,1954.jpg

Public domain



ブラセロの権利

- ブラセロ・プログラム制定時に最低賃金を時給30セントと決定
仕事がない場合も、契約期間中は、1日3ドルが生活費として支給される
⇔アメリカの農業労働者には、最低賃金が保障されていない
- 例)テキサス州のメキシコ系移民の社会的地位
→メキシコ人はアメリカ国内で法的に「白人」でありながら、商業・公共施設での隔離や差別の対象
+テキサス州の農場主は非合法移民を雇用し続けていた
=メキシコ政府はテキサス州内におけるブラセロの就労を認めない(政府による権利保護)

創出される非合法移民

ブラセロ・プログラム締結当初

- メキシコ政府:メキシコ北部の国境地帯での労働者の募集を回避
 - ⇔アメリカとの国境地帯ではなく、メキシコシティで労働者を募る

- アメリカ政府:メキシコ系労働者の国内への輸送費用はアメリカ負担
 - ⇔安価な労働力を求める農場主は不満

- 1943年には、テキサス州エル・パソで米墨国境警備隊が国境を開放
 - 約2000人のメキシコ系労働者をエル・パソから入国させる

ブラセロ・プログラムの性格

- 1947年、アメリカ・メキシコ両国はブラセロ・プログラムを第二次大戦後も継続させる協議

⇔メキシコからの非合法移民は6万人に及ぶとされる

➤アメリカに非合法入国し、メキシコ側へ送還された労働者を合法的な雇用の対象に
+テキサス州内の非合法移民の雇用をメキシコ政府も認める
=1948年に協定が締結(テキサス州へのブラセロ就労に関しては明記されず)

- テキサス州政府による、メキシコ政府へのブラセロ就労の働きかけ

=テキサス州の綿花産業はブラセロの就労を望み、アメリカ・メキシコの外交担当者に、メキシコ系移民と非合法移民問題への差別と雇用を是正することを申告

エル・パソ事件から再開交渉へ

- 1948年「エル・パソ」事件

→アメリカ南西部の主要作物である綿花やサトウキビの収穫期

メキシコ系移民労働者を、ブラセロではないが、メキシコ国境地帯で2000人募集

⇔募集作業が遅れて、労働者が滞留し、アメリカでは農繁期の労働者不足

- 1948年10月14日から17日にかけて4,000人から7,000人のメキシコ系労働者がテキサス州内に流入

⇒アメリカの国境警備隊の黙認による、国境の解放

→メキシコ政府は18日にブラセロ・プログラムの一時停止を決定

⇔メキシコ系労働者が合法的にアメリカで就労する回路がなくなると、非合法移民がさらに増加する懸念

おわりに

ブラセロ・プログラムとアメリカ・メキシコ の関係

- 1949年協定

合法的なメキシコ系移民の雇用協定＝非合法移民の抑止とする見解

⇔1950年代にさらに増加するメキシコからの非合法移民

➤1954年にアメリカは、メキシコ政府との協力で大規模な非合法移民の摘発作戦として、「ウェット・バック作戦」を展開。

＝8万件を超える摘発件数

- 1964年ブラセロ・プログラムの停止

☞合法的な労働者の導入経路の喪失と、国境の管理へと大衆の感情を引き寄せる

＝1970年代以降のアメリカ社会に浮上する「非業移民問題」へ

参考文献案内

- 戸田山祐「戦後期ブラセロ・プログラムの確立：1950年代前半のテキサスへのメキシコ人短期移民労働者導入を中心に」『社会科学』46巻、1号、2016年、33-64頁。
- 同上 「「メキシカン」の権利保障と短期移民労働者導入をめぐる政治：1940-50年代テキサスの事例を中心に」『アメリカ史研究』37巻、2014年、79-99頁。
- 同上 「「エル・パソ事件」と戦後期ブラセロ・プログラムの成立-移民統制をめぐる1940年代後半の米墨政府間交渉を中心に」『アメリカ太平洋研究』8巻、2008年、139-150頁。
- 庄司 啓一「ブラセロ・プログラム再考-非合法移民問題の起源をめぐって」『城西経済学会誌』35巻、2009年、35-63頁。
- 同上「ブラセロ計画についての一考察」『城西経済学会誌』19巻1号、1983年、19-38頁。
- 村田勝幸『＜アメリカ人＞の境界とラティーノ・エスニシティ:「非合法移民問題」の社会文化史』東京大学出版会、2007年。